

Passion for Dentistry

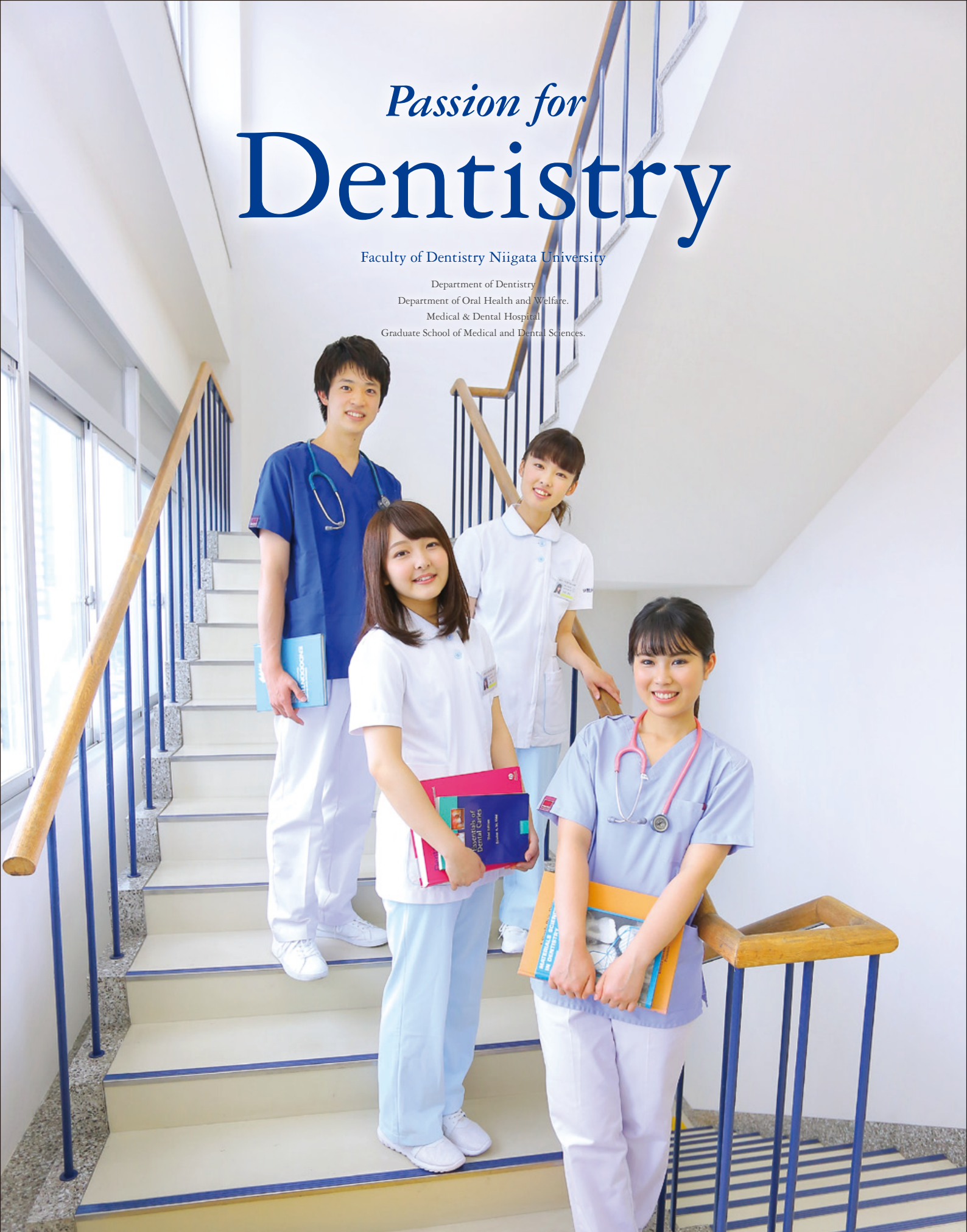
Faculty of Dentistry Niigata University

Department of Dentistry

Department of Oral Health and Welfare.

Medical & Dental Hospital

Graduate School of Medical and Dental Sciences.



新潟大学歯学部

歯学科・口腔生命福祉学科



新潟大学歯学部長
前田 健康
Takeyasu Maeda

恵まれた環境で、ともに学ぼう

新潟大学歯学部は昭和40(1965)年、3番目の国立大学歯学部として設置されました。歯学部の位置する新潟県は南北に長い海岸線を持ち、また山々に囲まれた四季の明瞭な自然豊かな土地です。四季明瞭で豊かな自然はお米、お魚、お酒に代表される食材をもたらし、それと共に発展してきた豊かな食文化をもっています。私たちは口腔の健康を『「食べる」、「飲み込む」、「話す」、「表情を作る」などの「人として生きて行くために必要な機能の回復・維持にある』』と考え、教育、研究、診療、さらには社会貢献に力を注いでいます。

歯学部設置当時は歯科医師不足とむし歯の洪水で、地域歯科医療に貢献できる人材、いわゆるdrill, fill, built(歯を削って、詰めて、かぶせる)のできる人材の育成が求められていました。時の経過と共に、社会情勢は大きく変わり、我が国は超高齢社会となり、歯科医療も健常者型から高齢者型への転換が求められ、健康寿命の延伸が国家政策となっています。超高齢社会の到来に備え、新潟大学歯学部は6年制の歯科医師養成コースの歯学科に加え、平成16(2004)年に全国で初めて4年制の口腔生命福祉学科を設置しました。口腔生命福祉学科は超高齢社会を迎えるなかでその必要性が高まっている、「食べる」ことや口腔機能の維持向上という視点から保健・医療・福祉を総合的にマネジメントできる専門家を養成することを目的としており、卒業により歯科衛生士と社会福祉士の2つの国家試験受験資格を取得できるカリキュラムを提供しています。歯学教育は、むし歯の処置や抜歯など技術教育の比重が高く、また、その技術を裏付ける知識が不可欠です。また、卒前に実際の患者様での臨床実習を行うため、社会に貢献する歯科医師として求められる知識・技術・態度の3つを効果的・一体的に学べるよう教育カリキュラム改革に取り組んできました。これらカリキュラムの改善には「特色ある大学教育支援プログラム」をはじめとする各種競争的外部資金を獲得し、学士課程から大学院課程まで教育改善を進めると共に、平成27(2015)年には歯学部校舎の大型改修工事の竣工、教育機器・施設の更新・導入により、ソフトおよびハード面でも、我が国で最先端の歯学教育・研究機関となりました。さらに平成24(2012)年度には文部科学省事業「大学間共同教育連携推進事業」にも採択され、PBLチュートリアル、統合型模型実習、診療実践型の臨床実習の実施等、国内外の人材養成のモデルになっています。

大学院医歯学総合研究科には口腔生命科学専攻及び口腔生命福祉学専攻(博士前期・後期課程)を設置し、保健・医療・福祉を統合した学際的教育・研究を推進しています。また、「魅力ある大学院教育イニシアチブ」、「大学院教育改革支援プログラム」、「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」等に採択されるなど、大学院教育の改善を進め、国際性のある研究者、高度医療専門職業人の育成にあたっています。

また、新潟大学歯学部ではグローバル社会で活躍できる人材育成を目的として、学部学生の短期海外留学を積極的に奨励・支援し、毎年30名近くの学部学生が海外に旅立つとともに、世界各国から短期留学生を受け入れ、国際的視野を持つ人材育成に努めています。姉妹校協定を結んでいる大学はアジア各国をはじめ、欧米、豪州などに拡がり、国際的ネットワークづくりを行っています。

新潟大学歯学部では、これからも口腔や食べることの視点から包括的な医療人を養成し、社会に貢献できる人材を提供していきます。“すべての人の健康と質の高い生活を実現する”そのような志をもった学生諸君を待っています。



新潟大学歯学部・ 医歯学総合病院(歯科)

最先端の研究開発をリード

新潟大学歯学部は昭和40年に日本海側唯一の国立大学歯学部として開設され、東京医科歯科大学歯学部、大阪大学歯学部について3番目に古い歴史を持っています。以来、新潟大学歯学部では地域で活躍する人間性豊かな歯科医師をはじめとした高度専門職業人の養成、最先端の歯科医学・医療の研究開発とその臨床応用などを通じ、環日本海における歯科医学・口腔保健医療福祉をリードする拠点として、輝かしい実績を残してきました。

2学科で構成

歯学部には歯科医師を養成する6年制の歯学科と、平成16年から新設された4年制の口腔生命福祉学科があります。口腔生命福祉学科は超高齢社会を迎えるなかでその必要性が高まっている、「食べる」ことや口腔機能の維持向上という視点から保健・医療・福祉を総合的に思考・マネジメント出来る専門家を養成することを目的としており、卒業により歯科衛生士と社会福祉士という2つの国家試験受験資格が取得できる全国初のユニークなカリキュラムを提供しています。

連携による充実の教育環境

歯学部の臨床教育および臨床研究の中核を担っているのが医歯学総合病院(歯科)です。医歯学総合病院は、医学・歯科医学が相互に連携した全人的医療・臨床教育・研究の実践を目指して平成15年に従来の医学部附属病院と歯学部附属病院を統合したものです。歯科医学・医療の研究組織であり、歯学科の卒業生の進学先ともなる大学院も平成13年から大学院歯学研究科と大学院医学研究科が新潟大学大学院医歯学総合研究科として統合されています。これより従来にもまして、医学・歯科医学、基礎・臨床などが有機的に連携した最先端の研究が進められています。

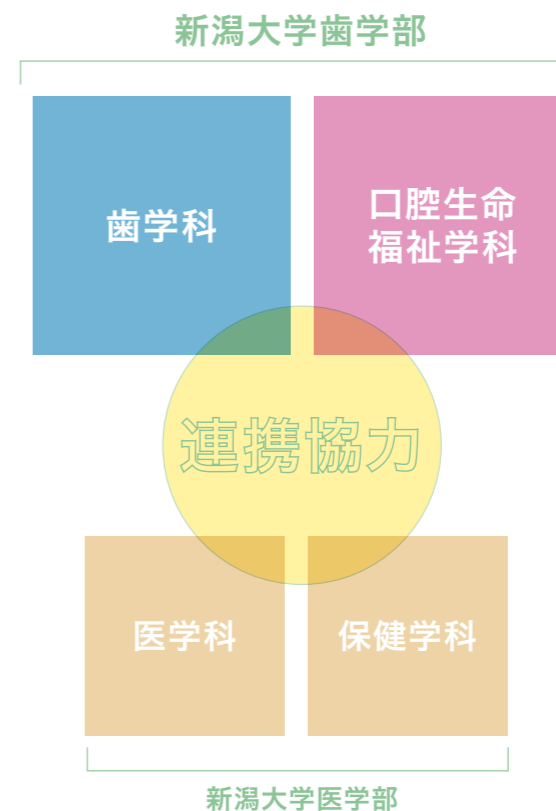
新潟大学歯学部では28名の教授をはじめとして

総勢約150名もの教員が、熱意ある皆さんの入学を待っています。



医歯学総合研究科
大学院

医歯学総合病院



新潟大学医学部

歯学科

人間性豊かな、考える歯科医師の
養成をめざす



最新鋭の設備で充実した教育を。

2012年から4年の歳月を費やし、生まれ変わった新校舎。日本の歯科医学・口腔保健医療福祉をリードする情報発信基地にふさわしい最新鋭の施設で充実した学びの時間を過ごせる。

歯学科アドミッションポリシー

■ 教育内容・特色

歯学部歯学科は、歯学分野における専門的知識・技術を深く究めるとともに、関連する医学分野の知識もあわせもち、全人的医療を行うことのできる有能かつ感性豊かな歯科医師を育成します。さらに、歯科医学発展に貢献できる指導的な人材(研究者・教育者)や地域歯科医療に貢献する専門職業人の育成に努めています。

歯学部歯学科では、情報化・グローバル化などの現代的ニーズに対応するため、コンピューターリテラシー教育や外国語教育を拡充するとともに、変化の激しい現代社会のなかで、新たな諸課題に関係者と適切に連携しながら問題解決をはかっていく能力

を育成するため、少人数グループによる問題発見解決型学習法(Problem-Based Learning)を導入しています。また、効果的な学習のため、専門科目の統合・再編成を行い、密度の高いバランスのとれた講義・実習を行っています。とくに臨床実習には力を入れており、入学直後から歯科医学へのモチベーションや将来の歯科医師としての自覚を高めるために早期臨床実習を、また口の中を総合的に診療できる能力の育成を目的に一貫した基礎・臨床実習教育システムを導入し、5年次後半からの臨床本実習では実際の患者さんの診療に直接かかわる診療参加型臨床実習を実施しています。

歯学科カリキュラム

	教養	語学	学習法 研究法	基礎 歯学	臨床 歯学	知識・技術 の統合	医療人	国際人
1年	教養を 考える		大学 学習法1	専門基礎			早期臨床 実習1	
2年次編入学								
2年			大学 学習法2	分野単位 の講義・実習		インターネット チュートリアル	地域歯科 保健実習	国際歯科 保健医療
3年			歯学 研究法				早期臨床 実習2	
4年			ネットワーク型 先端 歯学研究 (選択)	分野単位 の講義・実習 (隣接医学 を含む)	PBL チュートリアル	医療倫理	社会と 歯科医療	短期海外 派遣実習 (選択)
5年						総合模型実習		
6年						治療計画 立案演習	臨床 本実習	
歯科臨床能力試験								

■ 実践的な教育で確かな能力を修得

新潟大学歯学部では、従来の「歯」という小領域を中心とした学問の枠組みを見直し、歯学を口腔生命科学としてとらえ、これからの歯学界をリードする人材を育成することを教育の目的としています。学問の進歩、社会環境の変化などに対応するため、常にカリキュラムの見直しを行い、学生教育を行っています。

初年次には五十嵐キャンパスで他学部学生とともに教養教育に関する授業科目や大学での学習方法を学ぶとともに、医歯学総合病院(歯科)で歯科治療の現場を体験します。2年次になると学習と生活の場は旭町キャンパスへと移ります。「大学学習法」の発展学習や「インターネット・チュートリアル」といったアクティブラーニング科目に加え、専門的な科目が開講されます。このなかには、解剖学や生理学に加え、生体内で起こるさまざまな物理・化学的現象を学ぶ生体工学や高度な分子生物学の内容を含んだ生化学、組織工学なども開講され、口腔生命科学を学んでいくために必要な基礎知識を履修します。3、4年次には、講義のみならず、問題発見解決型学習法(Problem-Based Learning)など授業コーディネーターにより工夫された専門教育に関する科目を学ぶとともに、治療技術を習得する模型実習が始まります。模型実習

は少人数のグループごとにインストラクターが配置され、マンツーマンの指導が行われます。また、新潟大学歯学部が全国の歯学部にも先駆けて導入したコンピューターシミュレーションを用いたマネキン実習を行い、病院で患者さんの治療にあたる前に、より実践的な実習を経験することができます。さらに隣接医学の講義も開始されます。5年次に進級すると、実際の歯科臨床で遭遇するさまざまな疾患を統合的に診断・治療していくために必要な理論・技術を学びます。5年生の5月からは臨床予備実習が始まり、11月から約1年間の臨床本実習が行われます。臨床本実習では、指導教員のもと、実際の患者さんを相手に実習が進められ、歯科医師として必要な基本的な技術の習得、心構えなどを学んでいきます。なお、選択科目として、研究室配属による「ネットワーク型先端歯学研究」や、2週間程度の「短期海外派遣実習」を開講しており、学生の意欲や興味にも配慮したカリキュラムとなっています。

授業内容(シラバス)は冊子として学生全員に配布されるとともに、インターネット(<http://syllabus.niigata-u.ac.jp/>)上でも自由にみることができます。なお、各授業内容や方法に関しては学生による評価を行い、各教員はこれらの評価結果をもとに授業改善に努めています。

歯学科

人間性豊かな、考える歯科医師の
養成をめざす

特色あるカリキュラム

新潟大学歯学部歯学科では平成28年度入学生から新カリキュラムのもとで学生教育にあたっています。新カリキュラムでは以下のような特色あるカリキュラムを編成しています。

1 学生個々人の教養の創出

大学教育、アイデンティティ、社会的ニーズ、高校と大学と社会との接続などについての理解をふまえ、大学での教養教育において何が学べるのか、何を学びたいのか、なぜ学ぶのかを**学生自身に考えさせる授業科目「教養を考える」を開講し**、学生個々人の教養を涵養することに努めています。それにとめない、従来の「自然科学」「人文社会科学」などの科目区分による履修指定を廃し、**授業選択の自由度を大幅に拡大**しました。

3 専門教育に関する授業科目の体系化とアクティブラーニングの導入

従来からある分野単位の講義・実習に加え、**分野の枠を越えた統合科目を新設**しました。統合科目は授業コーディネーターが中心となって企画・立案され、分野協働で行われます。**各分野での知識・技術を統合、活用**するもので、問題発見解決型学習法(Problem-Based Learning)をはじめとした**アクティブラーニングの手法**を用いています。

5 授業科目の一部選択制の導入

従来、すべて必修であった授業科目に、**一部選択制を導入**しました。このことにより、研究に興味のある学生は研究室配属による研究科目を、国際的な活動に興味のある学生は短期海外派遣実習を選ぶことができ、**学生は意欲と興味のもとで多様な経験**を積むことができます。

2 入学後早期からの臨床実習の実施

入学直後の1年生から**医療現場を体験する実習や病院における歯科治療の第一線にふれる「早期臨床実習を実施し**、学習に対するモチベーションの高揚をはかり、将来の**歯科医師としての自覚**を芽生えさせます。

4 社会環境への対応

情報化・グローバル化に対応するため、コンピューターによる**情報検索や情報倫理教育**を取り入れています。また、国際社会に不可欠な語学力を養うため、初年次から4年次まで**語学教育を拡大**しました。

6 臨床患者実習の充実と歯科医師としての能力の担保

歯科医師として必要な基礎的臨床能力を育成するために、**指導教員のもとで実際の歯科医療にたずさわる臨床患者実習を充実**させています。学生が日々の実習で記載したポートフォリオでの指導と評価、また実習終了時には実際の患者診療を指導教員が評価し、**歯科臨床能力の担保**がなされます。なお、大学病院での実習に加え、地域医療の第一線で活躍している経験豊かな歯科医師のもとに出向き、指導を受けるプログラムも用意されています。

■ 実践的な実習で確かな技術を習得

6年生の1月初めに卒業判定が符われ、卒業見込みが確定すると、2月初旬(予定)の歯科医師国家試験を受験します。歯科医師国家試験は全国の主要都市で実施され、新潟大学歯学部の卒業生は新潟市で受験します。試験約1ヶ月半後に国家試験の発表があり、めでたく合格すると歯科医師免許証を手にすることとなり、歯科医師としての第一歩を歩み始めます。



■ 卒業後の進路

歯科医師免許を取得しても勉強していかなければならないことはまだまだあり、診療に従事しようとする歯科医師は1年以上大学に附属する病院や厚生労働大臣の指定する病院もしくは診療所で臨床研修を受ける必要があります。この場合、非常勤の歯科医師として、学生時代に習得した知識、医療技術をより高度なものにするため、優秀な指導者の的確な指導のもと、臨床研修をすすめ、自己の研鑽に努めます。

歯学部卒業後の進路はみなさんが考えているより狭くはなく、卒業生はさまざまな分野に進出し、活躍しています。病院や一般開業歯科診療所に勤務する者に加え、大学院に進み研究生活にはいり、博士号を取得する者、大学院で高度な専門医療技術を身につけ、博士号を取得する者、公衆衛生など歯科医療行政に進む者など、さまざまな進路があります。また、日常の歯科診療のかたわら社会人で大学院に入学し、博士号を取得する者もいます。新潟大学大学院歯学総合研究科では、このような社会人の生涯学習、リカレント教育の一環として、通常の大学院に進学できない人のための、昼夜開講制の大学院を開設しています。

■ 充実した研修医教育

厚生労働省の方針により、平成18年度から歯科医師の臨床研修が必修化(歯学部を卒業して歯科医師国家試験に合格するだけでなく、1年間の臨床研修を行い、修了認定を受けなければ立ち立できないというシステムが導入)されました。この制度は卒業後の歯科医師の技術向上を基盤として、歯科医療全般の根本的な底上げを狙って始められたものです。

新潟大学では、伝統的に継続している臨床実習(指導教員のもとで6年生が患者さんを担当し、実際に治療を行う)に加えて、臨床研修(研修医が指導教員のもとで治療を行う)の充実を図ってきました。本学における臨床研修最大の特徴は、見学中心ではなく診療参加型(研修医が治療を自分で行う)であることです。1年間に臨床研修医が担当する患者さんの総数は全国でもトップクラスであり、様々な面で研修医をサポートする多くの指導教員がいます。また、研修医専用の居室や技工室(歯型の模型を作ったりする作業部屋)、診療台も整備されており、臨床研修中は自分の知識と技術を磨くとともに専念できる条件が揃っています。新潟大学の歯科医師臨床研修プログラムは向上心のある研修医を全面的にバックアップするように組まれています。



自分で調べ学ぶ少人数グループ学習PBL



熱意ある指導



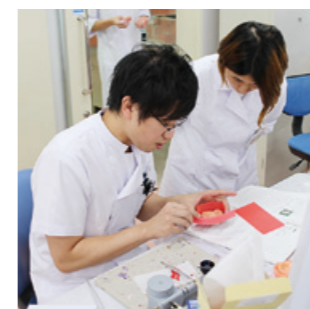
からだのしくみを基礎から学ぶ



実践型臨床実習



入れ歯の製作実習



マンツーマンで指導



最適な治療方針を決定する



外国人教員による指導

国際交流

外国人留学生・教員の受け入れ

新潟大学歯学部には世界各国から最新の歯科医学を学びに多数の留学生が在籍しています。これら外国人留学生は五十嵐キャンパスで日本語教育を受けた後、大学院医歯学総合研究科に入学し、日夜研究に励んでいます。現在までにルーマニア・インドネシア・ペルー・アフガニスタン・サウジアラビア・中国・バングラディッシュ・ボリヴィア・ニカラグア・チュニジア・フィリピン・タイ・スーダン・ヨルダン・ミャンマーなど多数の国から留学生を受け入れてきました。また、大学院修了後、その研究成果や活動が評価され、教員として採用されて学生教育にあっている人もいます。



歯学部の短期留学プログラム

新潟大学歯学部では、歯学部在学中の国際交流を重点的に推進しています。本学歯学部の交換留学プログラムは2011年度より、日本学生支援機構(JASSO)による留学生交流支援事業(ショートステイ/ショートビジット、略称SSSV)に採択され、多様な学生の受け入れや派遣を行っています。本事業では旅費・滞在費の一部が支給され、2011～2012年度に39名の歯学部生を外国の大学歯学部へ派遣し、また40名の学生を受け入れました。派遣先はタイ、インドネシア、台湾、アメリカ、カナダ、スウェーデン等、受け入れ先はこれらに加えてインド、モロッコ、ブラジル等多岐に亘り、お互いに10日～2週間程度滞ります。派遣先ではそれぞれの国や地域の特色を活かしたさまざまな短期研修プログラムが組まれており、参加した本学歯学部生は日本とは異なる環境で貴重な経験をすることができます。また、来学した学生たちも、本学教員による英語の講義・実習を通じた学習の他、本学学生との交流、日本文化や新潟の食を楽しんでいます。若いうちに外国で学び異文化を知ることは、大きく見聞を広げる良い機会になります。新潟大学歯学部を目指す受験生のみならず、ぜひ、入学と同時に国際人への第一歩となるこのチャンスをつかんでください。

歯学部長からのメッセージ - 海外留学へのいざない -

1994年、私は文部省在外研究員として、アメリカ・シアトルにあるワシントン大学医学部に留学しました。当時はまだ、日本の大学の一部でインターネット、Eメールが使えるようになったばかりであり、アメリカと新潟の連絡手段は電話、ファックスしかありませんでした。それから約20年、IT機器の進歩はめざましく、外国にいても即座に日本の情報が手に入り、またスカイプ等を利用して気軽にコミュニケーションがとれるようになりました。しかし、文明の機器がいくら発達し、便利になっても、人と人の付き合いは直に接し、異なる習慣・環境の中で暮らし、その文化を知らなければいけません。世界に出る若い

人達の数は年々少なくなっています。危機感をいだいた政府は厳しい財政状況の中、若者達に海外交流を経験させるためにさまざまな支援を行っています。その中の一つにショートステイ・ショートビジット事業(略してSSSV事業)があります。この事業を活用して、新潟大学歯学部では短期学生派遣、短期学生受け入れを行い、短期外国留学を経験した学生達で国際交流サークルを結成し、情報交換、外国人学生の生活支援などさまざまな活動を行っています。この制度を活用し、第1歩を踏みだしましょう。世界の若者達が君達の来訪を待っています。硬い殻を破り、勇気をもって、世界への扉を開こう。言葉は関係ありません。言葉は後からついてきます。

教員の海外研究派遣

海外での共同研究や研修のため、留学する教員も多数います。留学先は欧米各国ならびにアジア諸国と広範囲です。海外研究により本学部における教育・研究内容を広く紹介して意見交換を行い、本学部でも教育・研究の発展に反映させています。また、積極的に海外で開催される国際学会にて研究成果を発表する教員も少なくありません。

国際交流サークルNEXUSの活動

歯学部では2011年度に国際交流サークル(NEXUS)を立ち上げました。交換留学関連の活動を中心に、英語による研究発表会への参加など様々な活動を行っています。今後は、英語力向上を目的とした英会話クラスの開催なども検討しています。クラブのように楽しみながら、国際的な感覚を身につけることを目指しています。



Blogもご覧ください
<http://dentniigatauniv.blog.fc2.com/>

口腔保健医療に対応した国際イニシアティブ人材育成プログラム

国際機関や国内機関の保健医療専門家の育成を目指したプログラムを開発・実施しています。本プログラムについてはホームページ(<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/hrdpi/>)をご参照ください。

海外の教育研究機関との交流

新潟大学歯学部は世界各国の大学と研究交流をしています。本学部が中心となって大学間で姉妹校提携している大学として、米国ミネソタ大学(昭和57年度)と中国ハルビン医科大学(平成5年度)とタイ・コンケン大学(平成24年度)があります。また、学部間では、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部(平成元年度)、バングラディッシュ・ダッカ大学(平成6年度)、中国昆明医学院口腔医学系、ルーマニア・カロルダビラ・ブカレスト医科薬科大学歯学部(平成7年度)、フィリピン大学歯学部(平成8年度)、マニラ・セントラル大学歯学部、インドネシア・ガジャマダ大学歯学部(平成9年度)、中国吉林医科大学口腔医学院、メキシコ・コアウイラ自治大学歯学部(平成11年度)、バングラディッシュ・BSM 医科大学歯学部、タイ・タマサート大学歯学部、プリンスオブソングクラ大学歯学部、フィリピン・イースト大学歯学部、バングラディッシュ・ユニバーシティ歯科大学(平成12年度)、バングラディッシュ・シティ歯科大学、スリランカ・ペラデニア大学歯学部(平成16年度)、インドネシア大学歯

学部(平成19年度)、台湾・陽明大学歯学部、韓国・安東科学大学歯学部(平成21年度)、タイ・チェンマイ大学歯学部(平成24年度)、カナダ・プリティッシュコロンビア大学歯学部、ロシア・クラスノヤルスク国立医科大学歯学部、パシフィック医科大学歯学部、ミャンマー・ヤンゴン歯科大学(平成25年度)、ミャンマー・マンダレー歯科大学、米国ペンシルバニア大学歯学部、ベトナム・ホーチミン医科薬科大学歯学部、ハノイ医科大学歯学部(平成26年度)、スウェーデン・マルメ大学歯学部(平成27年度)、タイ・スラナリー工科大学、米国・イリノイ大学シカゴ校、ブラジル・ノバフェビ大学、オーストラリア・チャールズスタート大学、インドネシア・アイルランガ大学、タイ・チュラロンコン大学(平成28年度)、香港大学、台湾・国立台湾大学、ブラジル・サンパウロ大学(平成29年度)、タイ・マヒドン大学、インドネシア・マラナタクリスチャン大学(平成30年度)の各歯学部との姉妹校協定を締結しています。これら各大学との共同研究、セミナー開催など活発な研究交流が行われています。



学生からのメッセージ 初めてのSSSVを経験して



久保田 瑞穂
Mizuho Kubota
歯学部歯学科4年



私は、2017年3月の春休み期間に、前半の1週間はスウェーデンのマルメ大学、後半の1週間はスイスのWHO研修という形で、2週間のSVプログラムに参加しました。マルメ大学では、病棟見学と講義の参加が主な研修内容でした。マルメ大学は、問題解決型学習(PBL)を軸として、低学年から臨床実習も行っており、新潟大学との違いに驚きました。最も印象的だったのは、勉学に対する学生の姿勢です。講義や臨床実習後のディスカッションでは、各自が自信をもって発言しており、このように活発な議論を行うためには、相当の勉強量が必要だと感じました。また、現地の学生は皆とても親切で、毎日のように郷土料理店に連れて行ってくれたり、パーティーを開催してくれたりしました。学生との交流は語学の勉強にもなり、何より国境を越えて歯学の道を志す仲間ができたことは、私にとって非常に良い刺激となりました。彼らとは、現在でも連絡を取り合っている中です。WHOでは、歯科と全身疾患の相関やWHOの戦略など、

健康について幅広く学びました。歯科医師は、口腔だけでなく全身のことも理解する必要がありますが、その全身の健康を守るためのルール作りをしているのがWHOです。WHOでの話を聞いて、世界規模で物事を考えることの難しさや大切さを感じるとともに、難民区での歯科業務についても深く知りたくなりました。自由日には国連見学ツアーにも参加し、まさにworldwideな毎日でした。"Every journey begins with a first step."これは、スイス滞時に立ち寄った本屋さんで、たまたま目に飛び込んできた言葉です。どんな旅もまずは小さな一歩から始まります。歯科医師を目指す私たちにとって、何気なく過ごす日々や講義で学んだこと一つ一つが、「将来への一歩」であるに違いありません。そんな私たちの旅の景色をより鮮やかにしてくれる存在、それが「SSSV」だと私は強く思います。皆さんも、少しの勇気と大きな期待をもって、ぜひSSSVに参加してみたいかがでしょうか。きっと、まだ見ぬ景色が広がっているはずですよ。

口腔生命福祉学科

「食べる」ことの視点から、あらゆる人のQOL(生活の質)の向上を追求できる人材の養成をめざす

■ 歯科衛生士と社会福祉士の2つの国家資格を取得

超高齢社会を迎える我が国では、食べたり、飲み込んだりに障害(摂食嚥下障害)のある方が増加しています。

また、口の中の清潔を保ち、口腔機能を維持向上することが、肺炎の予防や全身状態の改善に繋がることが明らかになり、医療関係者や介護・福祉関係者などの口腔ケアに対する関心が高まっています。

こうした社会ニーズに対応できる専門家を養成することを目的に、口腔生命福祉学科では、すべての学生が卒業により歯科衛生士と社会福祉士の両国家試験受験資格を取得する全国唯一のカリキュラムを提供しています。



歯科衛生士

歯科診療所や病院の歯科口腔外科などで患者さんに対して、歯石除去や口腔衛生指導、歯科診療の補助行為を行うことが許されている歯科医療専門職の重要なスタッフです。また、市町村保健センターや企業の健康管理センターなどで、歯科保健サービスとして、むし歯などの予防処置や歯科相談・指導に従事する人もいます。歯科医療全体が治療から予防中心にシフトするなかで、歯科衛生士の活躍の場はますます広がっています。

■ なぜ2つの資格を取得するのか?

食べることは生きるための基本であり、要介護者や障がい者の方にとっても「おいしく食べる」ことは最も重要な生きがいです。しかし、単純に見える「おいしく食べる」ことひとつとっても、食べるために歯や入れ歯の治療をする人、全身の病気・障害の治療やリハビリテーションを行う人、食事介助をはじめとした介護、日常生活の支援をする人など様々な保健・医療・福祉関係者の十分な連携がなくてはその実現は困難です。

そこで、口腔生命福祉学科では、歯科衛生士と社会福祉士という2つの資格を取得することにより、口腔や食べること(摂食嚥下)についての高度な専門知識をもったうえで、保健・医療・福祉を総合的に思考・マネジメントできる専門家を養成し、「おいしく安全に食べる」ために必要となる保健・医療・福祉サービスを総合的に受けられる社会を創ることを目指しています。



社会福祉士

特別養護老人ホームなどの社会福祉・介護保険施設や地域包括支援センターなどで日常生活に困らている方を対象に、福祉の相談や指導・助言を行う福祉の専門家です。病院などで入院患者さんの退院後の保健・医療・福祉サービスの相談・調整を行うメディカルソーシャルワーカーとして従事する人もいます。高齢化に伴い、様々な背景により多様な支援を必要とする高齢者などが増加しており、社会福祉士の仕事はますます重要になっています。

/// 口腔生命福祉学科アドミッションポリシー

■ 教育内容・特色

指導的専門職業人(歯科衛生士・社会福祉士)として、保健・医療・福祉に関する深い理解と専門的知識に基づき、これらを総合的に思考・展開できる人材を育成します。

教育目標

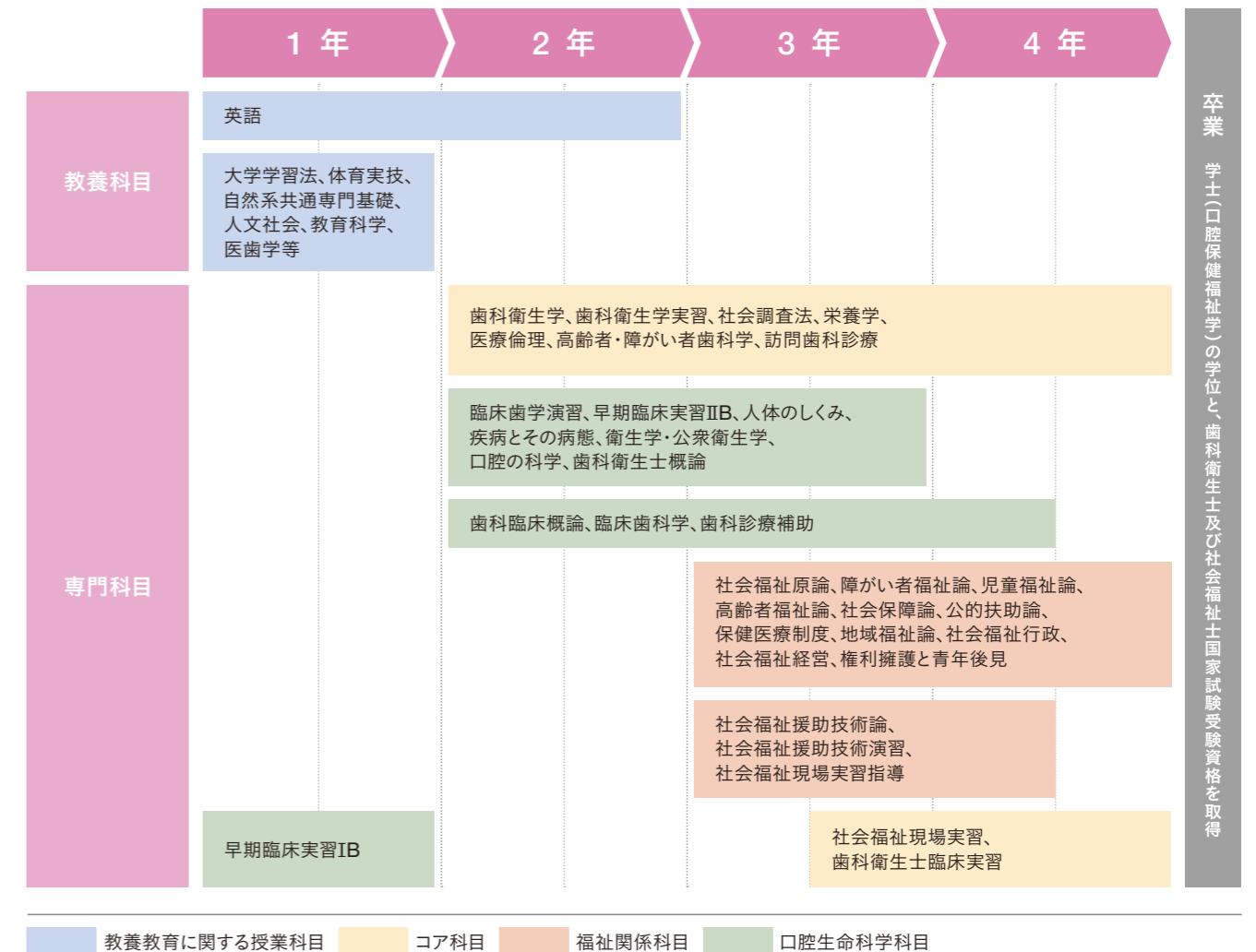
- 1 オーラルヘルスプロモーション(口腔の健康増進)を理解し、展開できる人材の育成
- 2 患者様・利用者の方が真に必要な保健医療福祉を総合的に提供できる人材の育成
- 3 自ら課題を発見し、その解決に向けた自発的な生涯学習を行うことができる人材の育成
- 4 幅広い関係者とのチームワークに基づく効果的な業務が行える人材の育成

■ 求める学生像

- 口腔の健康増進を基盤とした保健医療福祉に対し、高い目的意識を持った人。
- 地域や国際社会で、保健医療福祉への貢献・向上に努めたいと思っている人。
- 患者・利用者の方の痛みや苦しみを理解できる、人間性豊かな人。
- 高等学校卒業レベルの幅広い基礎学力を身につけ、国語・英語の文章読解力及び表現力と論理的思考力を備えている人。
- 自ら新しい課題に、意欲的に取り組もうとする人。

/// 口腔生命福祉学科カリキュラム

卒業により 学士(口腔保健福祉学)の学位と 歯科衛生士及び社会福祉士国家試験受験資格を得られます



■ 社会現場に即した実践的な学習

1年生は五十嵐地区で行われる英語、自然系共通専門基礎、人文社会・教育科学などの教養教育に関する授業科目を中心に履修します。また、旭町地区で「歯学スタディ・スキルズ」と「早期臨床実習IB」が開講されます。2年生以上の専門教育に関する授業科目は、口腔生命福祉学科としての共通的な基盤となるコア科目、歯科衛生士としての科目を中心とした口腔保健関係科目、社会福祉士としての科目を中心とした福祉関係科目から構成されています。

専門教育では、社会現場で遭遇する場面や事例を元に、少数グループで問題発見・課題解決型学習を行うPBL(Problem-Based Learning)を全面的に導入しています。また、すべての

学年で学外の医療・福祉施設などでの実習を行うとともに、保健・医療・福祉の現場で実際に活躍されている専門家による講義・演習・実習を多く取り入れるなど、社会現場に即した実践的な学習が可能なカリ



キュラムとなっています。卒業判定に合格すると、4年生の1月には社会福祉士国家試験、3月には歯科衛生士国家試験を受験することができます。

口腔生命福祉学科

「食べる」ことの視点から、あらゆる人のQOL(生活の質)の向上を追求できる人材の養成をめざす



学生からのメッセージ 口腔生命福祉学科で得られるもの



倉又 七海
Nanami Kuramata

口腔生命福祉学科 4年

口腔生命福祉学科では、歯科衛生士と社会福祉士という2つの資格の取得を目指します。私が口腔生命福祉学科について初めて知った時、歯学部なのに福祉についても勉強することが不思議でした。しかし「歯科」と「福祉」を学んでいく中で、今後ますます高齢化が進行しようとしている日本にとって、医療と福祉の連携は大切なことだと学びました。

私たちは「歯科」と「福祉」のそれぞれの方向から学ぶことによって、どちらの問題に直面した時にも広い視点から考えることができるような能力を養っています。

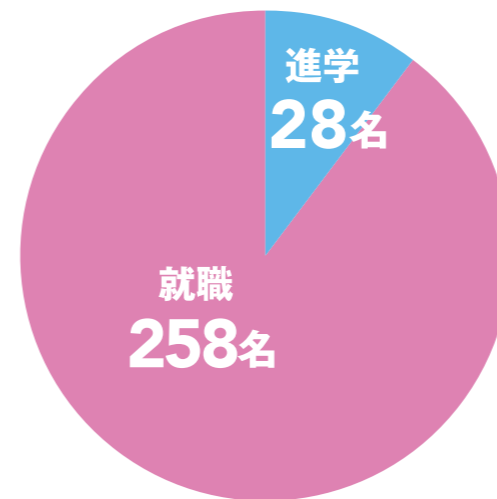
1年次には五十嵐キャンパスで教養科目を学びます。他学部の学生と一緒にいるため、交流の機会が多く充実したキャンパスライフを送ることができます。2年次は、旭町キャンパスで主に歯科の専門科目を学びます。3年次になると歯科の専門知識とともに福祉の講義や、福祉施設の見学を通して福祉の専門的な知識を身に付けます。4年次は、通年の病院での歯科臨床実習と学外の福祉施設で1ヶ月間行う社会福祉現場実習があり

ます。身に付けた技術や知識を最大限に生かすことのできる、恵まれた環境が整っています。

学業だけではなく、歯学部全体で行われる運動会や各種球技大会があること、部活が充実しているのも魅力の1つです。私はサッカー部に所属していますが、部活を通して同級生はもちろん、先輩や後輩との交流の機会があります。部活でのつながりは私の大学生活をより豊かなものにしてれています。

2つの資格取得を目指すことが、時間がなくて大変なのではないかと感じる方もいると思いますが、心配しなくても大丈夫です。時に厳しく時に優しくご指導して下さる先生方、4年間の大学生活を共にする同級生、部活やサークルの仲間などたくさんのサポートがあります。そのようなサポートがあるからこそ、今しかできない様々なことに挑戦でき、自分の視野や可能性を広げることができます。ぜひ口腔生命福祉学科で4年間の大学生活を充実させてください。

卒業後の主な進路



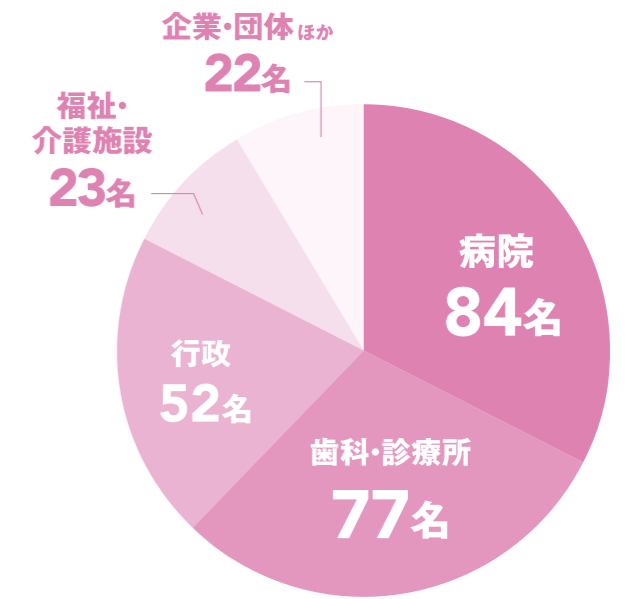
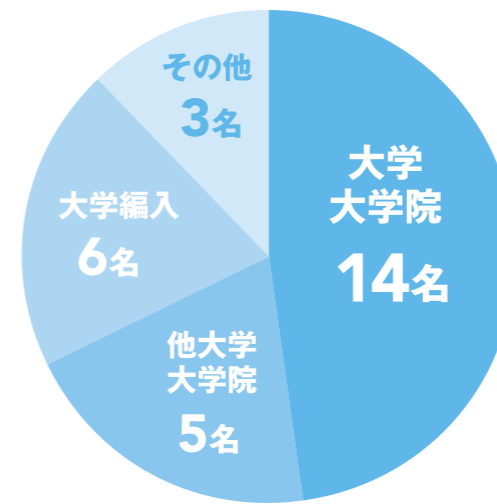
2007~2017年度(第1~11期生)実績

進学 **10%** 就職 **90%**

卒業後の主な進路としては

- 病院・歯科診療所における診療スタッフ(歯科衛生士)
- 病院等におけるソーシャルワーカー
- 社会福祉施設の生活相談員、介護支援専門員などの入所者等の相談指導、マネジメントを行う職員
- 行政における保健福祉部門(保健所、福祉事務所、市町村保健センター等)の専門職など
- その他、社会福祉協議会等の団体技術職員
- 歯科衛生士または福祉関係職の専修学校・大学等の教員、研究者などがあげられます。

2007~2017年度(第1~11期生)の進学・就職実績の内訳



進学

新潟大学医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻、同 医科学専攻、東北大学大学院、慶應義塾大学大学院、上智大学大学院、新潟大学歯学部歯学科編入、広島大学歯学部歯学科編入、九州大学歯学部歯学科編入、国立障害者リハビリテーションセンター言語聴覚士科 他

就職

新潟大学医歯学総合病院、信州大学医学部附属病院、自治医科大学附属病院、昭和大学病院、藤田保健衛生大学病院、新潟市民病院、新潟医療センター、長岡赤十字病院、藤岡総合病院、新潟県庁、新潟市役所、前橋市役所、さいたま市役所、名古屋市役所、新潟市社会福祉協議会、サンスター、ワークセンター日和山、新潟市地域包括支援センター 他

こんなところで活躍しています

歯科衛生士

- 歯科診療所
- 病院の歯科・歯科口腔外科
- 保健所・市町村保健センター
- 企業などの保健管理部門
- 大学・短大・専門学校ほか

社会福祉士

- 特別養護老人ホーム
- 地域包括支援センター
- 障がい者療護施設
- 福祉事務所、社会福祉協議会
- 児童相談所、児童養護施設
- 病院の退院支援部門 など



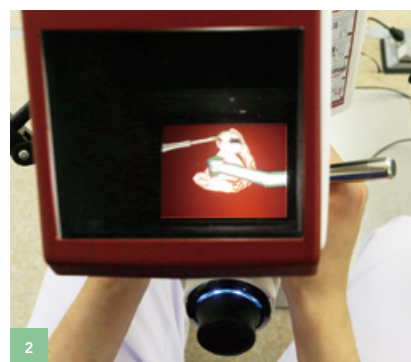
最新施設

新潟大学歯学部は校舎は2012年から4年を費やして大規模改修工事を竣工いたしました。さまざまな歯科医学教育のニーズに対応できる最新の実習設備や教育環境が整備されています。

バーチャルとリアルマルチ展開



1 2 国内最大数の導入「ムーグ Simodontデンタルトレーナー」実寸大の歯を再現した完全なバーチャルリアリティのトレーニングシステムで歯の硬さが再現されています



2



3



4

3 4 入れ歯や差し歯、矯正装置の製作実習を行う実習機は2016年に導入された最新6角形タイプ



5

5 6 高精度な模型実習が可能な実習室



6



7

7 多くの製作物に対応する技工室



8

8 臨床実習生には一人一台の技工機



9

9 10 11 歯科診療室と同レベルのリアルな相互実習室



10



11



臨床実習施設

新潟大学医歯学総合病院



歯学部では歯学科は5年生から、口腔生命福祉学科は4年生から医歯学総合病院での臨床実習が行われています。新潟大学医歯学総合病院は、日本海側唯一の医歯学総合病院として、環日本海における歯科医療の拠点として活動しています。医歯学総合病院では150人以上の教員が診療に従事し、学生、臨床研修医の教育にあたっています。

新潟大学医歯学総合病院では歯科診療部門として4系列12診療科を有し、特色ある外来も16部門が用意されています。医歯学総合病院の歯科診療部門には町の歯医者さんではあまり目にする事のないようなさまざまな診療科があります。各診療科では通常の歯科治療に加え、それぞれの専門領域の診療を行っています。また、きわめて先端的な治療を必要とする患者様に対しては、診療科ごとに専門外来をもうけています。たとえば、口の中においの気になる人に対する口臭外来、歯にかぶせた金属によりアレルギーを起こす人のための金属アレルギー外来、いびきに悩む人のためのいびき外来などが開設され、各分野の専門家が治療にあたっています。さまざまな病気の治療で、「口の中の副作用や苦痛」といった不快症状が生じたり、それにより治療が円滑に行いにくくなることがあります。新潟大学医歯学総合病院は、医科と歯科の連携を大きな柱としており、「医療連携口腔管理チーム」により、治療中や治療後に生じる

口の不快症状をできるだけ少なくするための口腔管理(口の不快症状の予防・軽減するための歯科治療と口腔ケア)を実施しています。さらに、医歯学総合病院の歯科診療部門では障がい者や高齢有病者の治療、唇顎口蓋裂の治療、顎関節の治療を、各診療科の協力のもとに行っています。また、口の中にできた悪性腫瘍(がん)やあごの骨折などに対しては、歯科麻酔科による全身管理下のもと大がかりな手術も数多く行われています。近年ではさまざまな病気をもつ患者様に対し、短期間の入院により、集中的に歯科治療なども行っています。医歯学総合病院には、新潟市内はもとより遠方からも、一日平均500人を超える患者様が歯科診療のため来院しています。患者様の数が多いことは、臨床研究や臨床技術の向上につながり、さらに、学生の臨床教育や歯科医師、研修医の臨床研修の充実につながります。

歯学治療は急速に進歩しています。身体にやさしいさまざまな材料の開発・応用、学問の発展による診断技術の向上、かみ合わせ(咬合)の仕組みの解明、コンピューターの歯科治療への導入などが行われています。新潟大学医歯学総合病院ではアカデミックマインドに立った歯科治療の開発、診断、応用がなされています。また、複数の専門家が集まり、診療チームをつくり、難しい症例に対しても積極的にアプローチし、治療し、良好な成績をあげています。



学生からのメッセージ 臨床実習と“多くの交流”



飯島 翼

Tsubasa Iijima
歯学部歯学科6年

こんにちは！学生6年の飯島です。これから、新潟大学歯学部歯学科について紹介していこうと思います。歯学科は将来歯科医師として働くために必要な歯科医師資格の取得を目指しています。そのためには6年間大学に通わなければいけません。それを聞くと「長い」「何のために?」「6年もめんどくさい」と思うかもしれませんが、僕も思っていました。しかし、今感じていることは6年間はあっという間で、まだまだ足りない、ということです。もちろん歯学という学問を学び、技術を身につけるのは簡単なことではなく、まだまだ勉強していかなくてはいけないという意味もありますが、それよりも伝えたいことは大学生活は楽しくて充実しておりとても有意義な時間であるということです。それでは、新潟大学はほかの大学と何が違うのか。それは実際に治療をすること、すなわち臨床のことを常に考えながら勉強、実習を行うことが出来るということです。高校までの勉強では、これは将来何のためになるのだろう、と疑問に思ったことがある人は少なくないはず。それを可能にしているのが新潟大学歯学部の特徴でもある1年生と3年生で早期臨床実習といふ歯科の専門科で実際に治療を見て体験し学ぶ機会があることです。知らない

ことを学ぶより、一度みたことがある、体験したことがあることを学ぶ方が吸収の仕方が全く違い、今自分が学んでいることが自分の将来に直結している実感することが出来ます。その他に年間を通じて様々な行事があります。5月にはクラス対抗の運動会があります。普段見ることが出来ない友達的一面を見ることができたり、先輩、後輩と交流したりすることもできます。8月にはオールデンタルといふ、各部活動ごとに全国の歯学部が集まり行う全国大会があります。毎年、開催される場所が違うので、6年間で日本のいたるところに行く機会があります。10月には医学部と協力し医歯学祭と呼ばれる学園祭があります。医学部の方とも交流する機会があり、様々な面で刺激を受けることが出来ます。11月には球技大会があり、クラスが団結、協力しバスケ、バレー、フットサル、卓球、ソフトボールで勝利を目指します。歯学科は40人と人数が少ないため、年を重ねるごとにクラスの仲はよくなり、団結力は深くなります。そこで生まれた関係は一生の宝物です。いかがだったでしょうか。大学生生活の6年間は想像しているよりあっという間です。そんなかけがえのない大学生生活6年間を私たちと一緒に新潟大学歯学部で過ごしてみませんか。

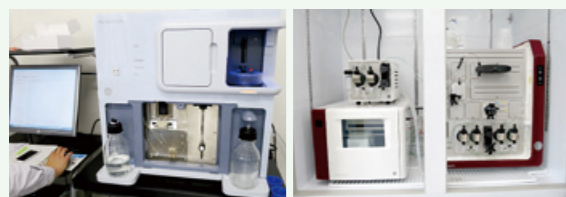


■ 最新の研究機器を導入し、口の中のさまざまな研究を行う

新潟大学歯学部では最新の研究機器を導入し、口の中のさまざまな研究を行っています。むし歯や歯周病といった歯医者さんの治療に関することはもちろんのこと、一見、歯の治療とは無関係に思えるような「口の科学」の広範な研究を行っています。

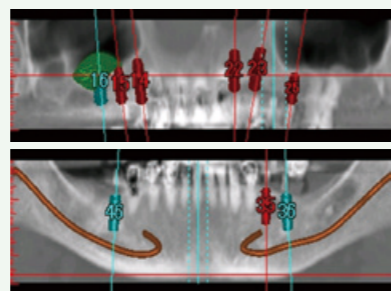
遺伝子やタンパク質の精密解析システム

高解像度のイメージング機器を用いて、免疫細胞と細菌の相互作用をリアルタイムに解析。



CTを応用したインプラント埋入シミュレーション

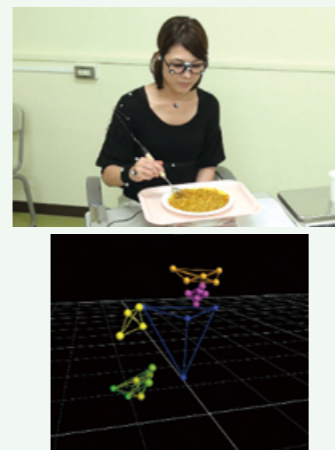
CTデータを分析してインプラント埋入のシミュレーションを行い、骨内にインプラントと骨量を検討し治療計画を実行している。



「食べる」を科学する

三次元モーションキャプチャーシステム

スポーツ医学でも応用されている三次元モーションキャプチャーシステムを用い、「食べる」動作の運動解析・協調運動・発達について研究を行っています。



「飲み込む動きと力」を測る

ものを飲み込む際の舌の動きを検出し、解析する舌機能評価システムを構築しています。



「食べる」を知るための様々な記録

食べることは、実はとても複雑で神経や筋を使って行っている運動です。エックス線、内視鏡、筋活動、脳活動を記録して食べる機能の解明をしています。



再生医療

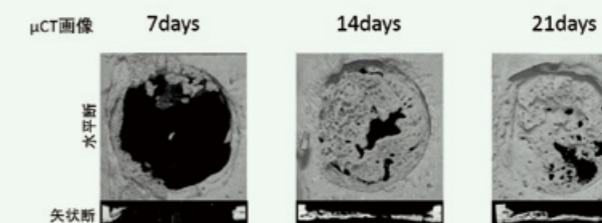
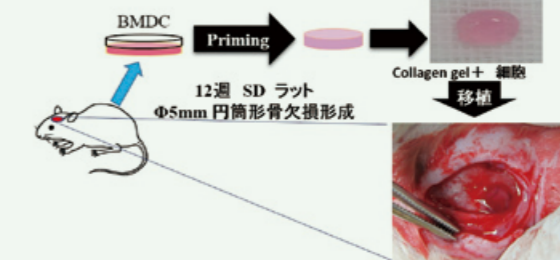
乳歯由来のiPS細胞を用いた再生医療研究

歯の交換により不要になった乳歯の細胞などを再生医療に応用する試みを行っています。



ラットを使用した細胞移植による骨再生

細胞移植による骨再生モデル



クラブ活動

- | | | | | | | | | |
|-----|----------|----------|------------|---------|-----|-------------|------|------|
| 運動部 | ●スキー部 | ●バレーボール部 | ●卓球部 | ●弓道部 | 文化部 | ●軽音楽部 | ●茶道部 | ●合唱部 |
| | ●バドミントン部 | ●剣道部 | ●ゴルフ部 | ●硬式テニス部 | | ●国際歯科保健サークル | | |
| | ●軟式テニス部 | ●軟式野球部 | ●バスケットボール部 | | | ●国際交流サークル | | |
| | ●サッカー部 | ●水泳部 | | | | ●地域歯科保健サークル | | |

※自分の好きなクラブがない場合は、仲間を募ってクラブをつくることも可能です。歯学部学生会がバックアップします。



■幅広い人間形成の養成

歯科医療は高い技術があるだけでは失格です。豊かな人間性が求められます。学生時代にクラブ活動をして、沢山の友人を作り、人間性を養いましょう。歯学部の学生は平均2つのクラブ活動に参加し、学生生活を充実させるものになっています。

■全学のクラブ

新潟大学は1万人以上の学生が学んでいる総合大学です。全学的なサークル活動も盛んです。いろいろな学部の学生と交流し、豊かな人間性を養ってください。歯学部は在籍し、全学ポート部に所属し、アジア大会優勝、アトランタオリンピックに出場した学生もいました。

■全日本歯科学学生総合体育大会

全国29歯科大学及び歯学部の学生による全国規模の体育大会で、25種目に約1万人の歯科学学生が参加します。冬季部門3種目、夏季部門22種目で、部門優勝と総合優勝を競います。

新潟大学歯学部の各運動部も毎年参加しています。

イベント

歯学部は講義・実習に追い回されるのでは?とと思っている人も少なくないでしょう。確かに、学生たちは歯学部の6年間ないしは4年間の生活でいろいろな知識、技術そして人間関係を勉強しています。忙しい中でも、学生が主体となり企画、実施しているイベントがいくつかあります。歯学部歯学科の一学年の定員40人、口腔生命福祉学科は20人です。高校の1クラスとほぼ同じか、その半分の数で、大学教育としてはきわめて少人数の単位なのです。想像してみてください。クラスが一致団結して、目標に向かう姿を。



■歯学部運動会

例年、5月の上旬又は中旬の土曜日に歯学部運動会が学年対抗で開かれます。学生の学生による学生のための運動会ですが、各学年ごとのチームに教員が参加し、優勝を目指します。

■医歯学祭

医学部・歯学部の文化祭ともいべきもので、11月初旬の土・日に医学部・歯学部で行われます。学部を一般の人に知ってもらう展示を中心に、病院の教員の協力による無料歯科相談、軽音楽部の演奏、著名人を招いた講演会などいろいろな企画が行われます。

■スポーツ大会

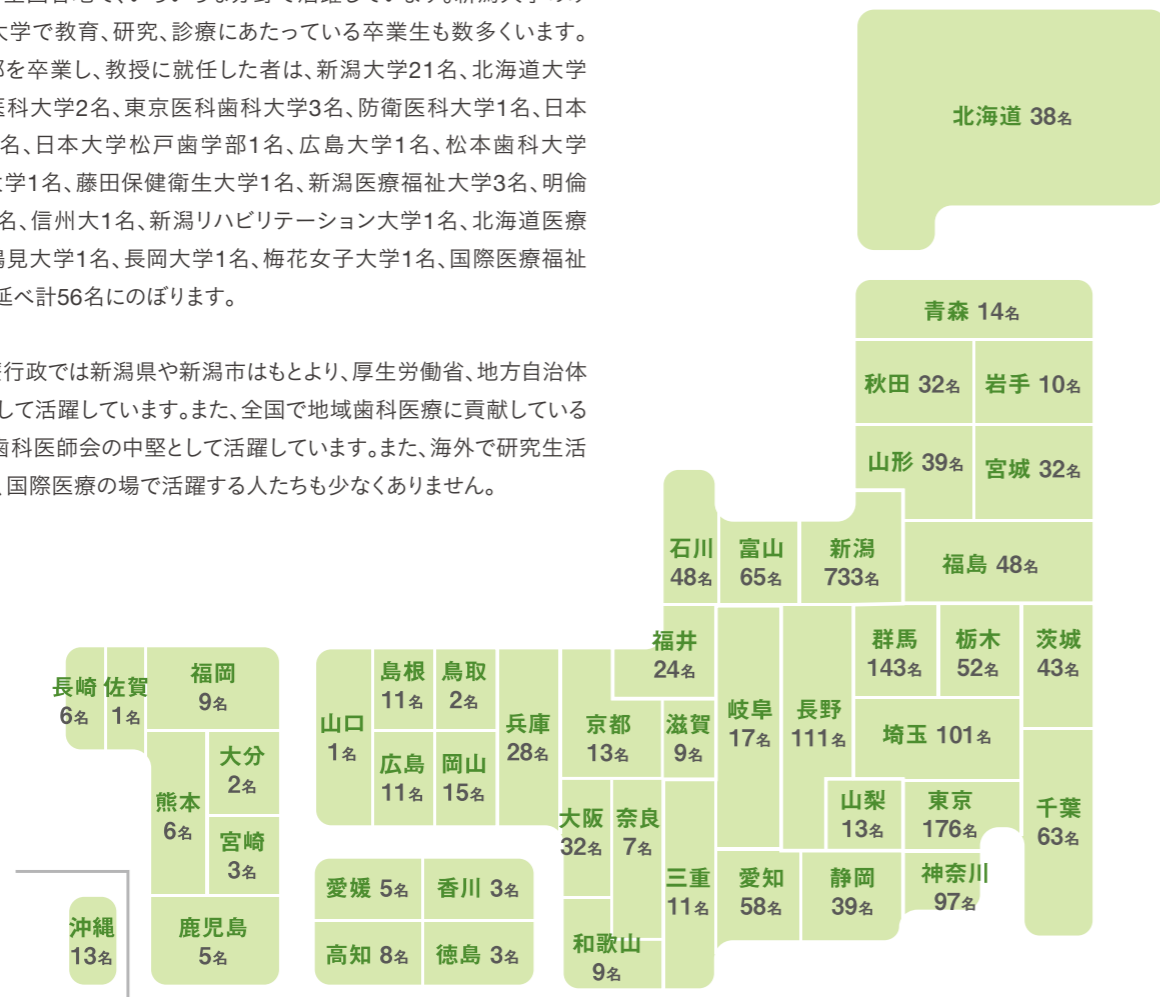
休日を利用した、運動部が主催する各種スポーツ大会の開催も盛んです。サッカー、バレーボール、テニス、バスケットボール、ソフトボールなどを大いに楽しめます。教員もチームを作り、学生に負けるものかと張り切って、ボールを追いかけ、白熱したプレーを披露しています。

各地で活躍する卒業生

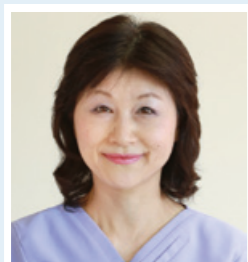
新潟大学歯学部卒業生は平成30年3月末で2,800名に及び、新潟県のみならず、全国各地で、いろいろな分野で活躍しています。新潟大学のみならず、他大学で教育、研究、診療にあたっている卒業生も数多くいます。本学歯学部を卒業し、教授に就任した者は、新潟大学21名、北海道大学2名、岩手医科大学2名、東京医科歯科大学3名、防衛医科大学1名、日本歯科大学2名、日本大学松戸歯学部1名、広島大学1名、松本歯科大学8名、朝日大学1名、藤田保健衛生大学1名、新潟医療福祉大学3名、明倫短期大学2名、信州大1名、新潟リハビリテーション大学1名、北海道医療大学2名、鶴見大学1名、長岡大学1名、梅花女子大学1名、国際医療福祉大学1名の延べ計56名にのぼります。

歯科医療行政では新潟県や新潟市はもとより、厚生労働省、地方自治体の行政官として活躍しています。また、全国で地域歯科医療に貢献している開業医も、歯科医師会の中堅として活躍しています。また、海外で研究生活を送る者や、国際医療の場で活躍する人たちも少なくありません。

■ 卒業生の勤務地 (総合計2,209名)



同窓会会長からのメッセージ



有松 美紀子

Mikiko Arimatsu

新潟県胎内市開業
歯学科 1984年卒業

新潟大学歯学部同窓会長の有松美紀子です。新潟大学歯学部同窓会は、創立45周年を迎え、歯学科と口腔生命福祉学科の2学科合わせて現在では2,700名以上の同窓生が日本全国のみならず海外でも活躍しています。

歯学科の卒業生は、歯科医師として地域医療に努めるだけでなく、大学や研究所などで研究者としても業績を積んでいます。中には歯科医師だけでなく弁護士になった方もいます。

口腔生命福祉学科の卒業生の進路は、多岐に渡っています。行政や福祉施設等で社会福祉士の資格や知識を生かして働いたり、歯科衛生士の免許を生かして

病院や診療所に、また、歯科製品や歯科材料の製作・販売の会社にも勤務しています。今年度は、学科設立10周年を迎え、同窓生の人数も200人を超えました。中には大学の教員になり、研究のかたわら後輩の教育に携わったり、歯学科に編入して歯科医師の資格も手にする人も増えました。

いずれの資格も国家試験に合格すると手にすることができます。国家資格は一生の宝物です。

皆さんが、歯学部で学び、国家資格を手にして活躍されることを期待しています。私たち同窓会は、歯学部卒業生の受け皿であり、いつも応援しています。



新潟市西区役所健康福祉課

下内 美樹

Miki Shimouchi

口腔生命福祉学科 2013年卒業

私は平成25年に口腔生命福祉学科を卒業し、現在、新潟市西区役所健康福祉課で働いています。歯科衛生士としての採用であり、地域の歯科保健推進に取り組んでいます。仕事の内容としては、地域の歯科疾患の状態を把握して、乳幼児期から高齢期までライフステージごとに歯科保健事業を実施しています。具体的には、妊婦の方やお子さんの歯科健診で歯科相談や保健指導をしたり、子育て支援センター等で親子を対象に、お子さんの歯磨きの仕方やむし歯予防の方法等についてお話をしたりしています。また、成人や高齢者の方へ対して、歯周病予防や、体やお口の体操、噛んで飲み込む機能などについて歯科講話を行っています。

この仕事は、歯科医師、保健師、栄養士、作業療法士など様々な職種の方々と連携を図りながら進めていく仕事です。多職種の方々と意見交換や協力しながら、地域の方々が健康で生活していけるように様々な支援をしています。私は、この仕事に携われて毎日とてもやりがいを感じています。この学科の特色であるPBL(問題発見解決型学習法)は、現在の自分の力になっていると思っています。仕事をする中で、様々な知識が必要になることは多いです。大学で学んだ、自らの力で調べ、仲間と協力して問題を解決していくということは社会に出てからの自分の糧になっていると思っています。口腔生命福祉学科の大きな魅力は、歯科衛生士と社会福祉士、2つの資格取得を目指すことだと思います。卒業後の進路は、病院・歯科診療所、社会福祉施設、行政、企業、大学院進学、など様々です。自分の夢や目標を大学生活の中で見つけてみてください。私は、大学生活で出会った方々との出会いが、現在の自分に繋がっていると思っています。人との出会いを大切に、何事にもチャレンジし沢山の経験を積んでください。



新潟県長岡市開業

山田 浩之

Hiroyuki Yamada

歯学科 1987年卒業

新潟大学歯学部を卒業後、新潟大学附属病院で10年間歯学教育・歯学研究および歯科臨床に携わり、その後開業医として19年になります。歯科医になって29年が経とうとしているわけですが、毎日の臨床において常に充実感を感じて取り組んでいます。子どもから老人まで患者さんの生涯にわたって、健康に関わっていけることは歯科の魅力のひとつです。新潟大学にいた16年間よりも、地元に戻ってからのの方が長くなってきましたが、大学時代に身につけた歯科に対する考え方、問題解決のための姿勢が基本にあります。患者さんごとに異なる複雑な問題の解決のためには、この基本姿勢のもと、知識と技術、経験を最大限に働かせていなくてはなりません。口腔内の健康が回復し、治療の結果にこころからの笑顔で喜んでくれる患者さんに囲まれ、歯科に対する情熱は冷めることはありません。

新潟大学歯学部は国立大学としては3番目に設立された歯学部としての伝統を引き継ぎながらも、新しい分野を切り開いていこうという熱気・活気に溢れています。また新潟大学出身の優秀な歯科医が全国で活躍するようになってきています。次世代の歯科を担う君を新潟大学歯学部はきっと待っています。



新潟市歯科医院開業

佐藤 孝弘

Takahiro Sato

歯学科 1992年卒業

輝かしい未来に満ちあふれたみなさんこんにちは。私は新潟大学歯学部出身で現在は新潟市で開業をしています。私が過ごした大学生活そして今の仕事についてご紹介いたします。私は親が歯科医師ではないので歯学部受験は高校生になってから考えた進路でした。6年間の勉強の後国家試験に合格し卒業後大学院に進み研究に没頭した4年間、その後8年間の大学病院勤務を経て自分の歯科医院を開業しました。現在、卒業して25年、毎日の歯科医の仕事が楽しく充実して仕事ができていることに本当に感謝しています。特に歯科インプラント治療を中心とした診療をしています。日々の仕事は楽しくエキサイティングです。それらの成果を月に1度は国内学会で発表したり、歯科医師を指導するインストラクターとして全国各地でのセミナーも開催しています。また年に2回は海外の学会に歯科医師の仲間と共に出席して充実した日々を過ごしています。

今からさかのぼること31年、新潟大学歯学部を受験に訪れ、試験の後に不安な気持ちで歩いた古町を今でもよく覚えています。学生時代はよく遊びよく学びそしてよく遊んだ6年間で。学生時代にテストの対策として各科目毎にまとめた対策本が友人や後輩に好評で、そのシリーズの製作が自慢でしたが、現在も歯科医師向けの専門書をシリーズで執筆する際など同じ事をするなと思いつつもその経験がとても役に立っています。学生時代に良き友人達と苦楽を共に過ごしたのは良い思い出です。今でも学会などで級友やクラブの後輩に会っては昔に戻り時を忘れて楽しんでいます。いろいろな学会などで大活躍している先生が新潟大学歯学部の先輩や後輩だったりすることがよくあり新潟大学出身で良かったと思います。学生時代に学生生活を充実して謳歌した人達はみな現在も歯科医師としても充実して大成功しています。私の歯科インプラント治療の師匠は現在82歳ですが、現在も毎日まったく変わらずに診療して、かつ最先端の歯科医療を実践して充実した日々を過ごしています。私もそんな人生を目指したいと思っています。製造されたモノを売る仕事と違って、自分の手の技術に価値を感じてお金を払ってくれる人がいる。患者さんがありがとうと感謝してくれる仕事。なんと素晴らしい仕事でしょう。みなさんは大いなる可能性があります。なりたい自分になれる職業の扉として新潟大学歯学部をおすすめします。



入試案内



新潟大学歯学部ではわれわれとともに21世紀の歯科医療を担う優秀な若人を広く募集しています。本学部の入学試験には以下の3通りの方法があります。すなわち、最多で3回のチャンスがあるということです。なお、帰国子女を対象とした特別入試(歯学科)や、歯学科第2年次編入学試験および口腔生命福祉学科第3年次編入学試験も実施しています。

特別入試

推薦入試 歯学科、口腔生命福祉学科

入学定員の一部について、出身学校長の推薦に基づき、個別学力検査(いわゆる2次試験)を免除し、大学入試センター試験、個人面接、小論文、調査書を総合的に判断して合格者を決定する方法です。この方法で出願できるのは現役生だけです。12月初旬に実施します。

一般入試

前期日程 歯学科、口腔生命福祉学科

大学入試センター試験、個別学力検査及び面接試験の成績で合格者を決定する方法です。個別学力検査及び面接試験は2月下旬に新潟大学歯学部で実施されます。

一般入試

後期日程 歯学科

個別学力検査を免除し、大学入試センター試験と面接試験の成績で合格者を決定する方法です。面接試験は3月中旬に新潟大学歯学部で実施されます。

募集人員

平成30年度

学科		特別入試(推薦入試)	一般入試(前期日程)	一般入試(後期日程)
歯学科	募集人数	10名	22名	8名
	志願者	12名	115名	145名
	倍率	1.2倍	5.2倍	18.1倍
口腔生命福祉学科	募集人数	5名	15名	—
	志願者	7名	51名	—
	倍率	1.4倍	3.4倍	—

※なお、各選抜試験ごとの募集人員及び入試科目などは変更される可能性があります。詳細は例年11月に発表される募集要項を参照してください。

入学試験に関するお問い合わせは

〒951-8514 新潟市中央区学校町通2番町5274番地
新潟大学医学部歯学部事務室学務係

☎025-227-2798・2799

e-mail : gakumu@dent.niigata-u.ac.jp

URL : <https://www.dent.niigata-u.ac.jp/>

20年後の自分は、どうしていますか。

Passion for Dentistry



Passion for Dentistry

Faculty of Dentistry Niigata University

Department of Dentistry
Department of Oral Health and Welfare.
Medical & Dental Hospital
Graduate School of Medical and Dental Sciences.

アクセス



🚌 新潟駅からバスに乗る場合

新潟駅前(万代口)から、市内バス「川端町経由新潟大学病院」行きに乗車し、約20分で到着します。時間によっては新潟駅前(万代口)から、「萬代橋ライン(BRT)」「信濃町線」「有明線」「西小針線」などに乗車、「市役所前」で下車してください。

🚆 JRを利用する場合

新潟駅で越後線に乗り換え、一つ目の「白山駅」下車、徒歩15分です。
なお、白山駅前広場から「萬代橋ライン(BRT)」をご利用頂けます。(「市役所前」で下車。所要時間:約3分)

🛣️ 高速道路を利用する場合

北陸自動車道新潟西インターチェンジまたは、磐越自動車道新潟中央インターチェンジで高速道路を出て、新潟バイパスに入り、桜木インターチェンジで降ります。昭和大橋方面に直進し、約10分で到着します。

✈️ 飛行機を利用する場合

新潟空港からタクシーに乗り、約30分です。



新潟大学歯学部

Faculty of Dentistry Niigata University

〒951-8514 新潟市中央区学校町通2番町5274番地
☎025-223-6161(代表)

【歯学部】
<https://www.dent.niigata-u.ac.jp>

【医歯学総合病院歯科】
<https://www.nuh.niigata-u.ac.jp>